Japanese Red Cross Society NEWS

赤十字NEWS

http://www.jrc.or.jp

July 2019
NO.950
7

令和元年7月1日（毎月1日発行）
赤十字新聞　第950号
昭和24年9月30日 第三種郵便物認可

豪雨災害から1年後のいま

１年前の夏、広島・岡山・愛媛など広範囲を襲った「西日本豪雨災害」。
今もなお復興の途中にいる人々、さまざまな形で復興を支えている人々が大勢います。
世界的な気候変動によって、日本でも激甚化する自然災害が増えています。
被災地の皆さんの話に耳を傾け、その教訓をどのように生かしていくのか。
日本赤十字社は、被災された方々に寄り添い、救う活動を続けています。

愛媛県大洲市役所肱川支所の職員の皆さん

CONTENTS

FEATURE__2・3
西日本豪雨災害 あれから１年

TOPICS__4
平成30年度決算概要報告

TOPICS__5
KENKETSU TOWN オープン！
赤井十子さんの ワクワク赤十字体験！「血液から薬を作るお仕事」

AREA NEWS__6・7
全国／広島／埼玉／神奈川／静岡／福岡
健康豆知識「難聴対策」

WORLD NEWS__8
緊急対応ユニットERU
１枚の写真から「赤十字精神の伝道者」

赤十字新聞　編集・発行／日本赤十字社 広報室
〒105-8521 東京都港区芝大門 1-1-3
TEL：03-3438-1311
一部 20 円
赤十字新聞の購読料は会費に含まれています。

人間を救うのは、人間だ。

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

人との つながりに 支えられて

西日本豪雨災害 あれから1年

広島

被災者
高下国治さん、敏子さん

未曽有の豪雨により、広域にわたって大水害が発生した「西日本豪雨災害」から約１年。被災者、そして被災地のために活動してきた人たちにとって、どのような時が流れたのか…。この１年を語る言葉の中には、“人と人”の関わりから生まれた“つながり”がありました。

被災当時。家をはじめ電柱も橋も流され、道は完全に土砂で埋まった。

１年後、土砂は撤去されたが、家の再建は一部にとどまる

「まさか雨くらいで…」思いがけないことの連続 避難生活は、これからも続きます

「避難所内の赤十字の救護所で、主人に血栓が見つかって…」と、当時を思い出す高下敏子さん。赤十字の医師のアドバイスを受け、夫の国治さんを大きい病院に連れて行き、処置を受けたそう。「そのまま気づかずに放置していたら、危なかったかも」と語る敏子さんの横で国治さんもうなずきました。

高下国治・敏子さん夫婦が暮らしていた広島県坂町の小屋浦地区は、土石流が発生するなどし、15人が犠牲になった場所。町の東西に流れる天地川の上流で暮らしていたご夫婦は、あの夜、見たこともない情景を目撃したと振り返ります。「夜になって川の音が聞いたことがないくらい大きくなり、２階の窓から川を見たら、民家の屋根や大木が流れていました。近所の方と窓越しで励まし合っていましたが、朝方、ドーンという音とともに家が揺れ、いっきに土石流が１階へ流れ込んできました」と国治さん。救助隊に助けられたものの、近くにある指定の避難所は満員で入ることができず、行くあてもなく途方に暮れる経験もされました。「何かあったらここに避難すればよいと聞いていた場所に入れず、用意していた防災グッズや備蓄の食糧も流されて。荷物を持ってもっと早く避難していればよかった、と後になって思いましたが、大雨くらいでこんなことになるなんて想像もしませんよね」。ご夫婦はその後、離れた場所にある体育館での避難所生活を送ることに。

「避難所では１日１日を過ごすことに精いっぱいでしたが、ボランティアさんや毎日血圧を測りに来てくださった赤十字の方と話す何気ない会話に元気をもらいました」と敏子さん。少しずつ日常を取り戻しつつあるお二人。しかし１年後には、現在暮らす仮設住宅を出て、新しい生活を始めなければなりません。

お弁当１つ、その向こうにも“人の優しさ”が見える

「避難所生活で一番感じたことは“人の優しさ”。顔を合わす方はもちろん、避難所に毎日届けられるお弁当や全国から集まる救援物資といった物からも、その気持ちは伝わってきました。家の片づけに来てくださったボランティアの方は、今でも近くに来たら声をかけてくださって…。人って本当に温かいし頼りになるなと感じました」（敏子さん）

岡山

防災ボランティア
加藤典子さん

これまで当たり前に行っていた “声掛け”で熱中症の救急搬送がゼロに

大規模な冠水被害が起こった岡山県倉敷市。日赤は早くから医師や看護師を派遣していました。加藤さんが、災害ボランティアリーダーとして現地へ視察に向かったのは発災から１週間後。「医師や看護師でもない私に何ができるかを考え、まずはできることからと全国から駆けつけたボランティアさんのサポートに回ることにしました」と加藤さん。当時は、ボランティアが熱中症で倒れて搬送されることが問題に。

「薬を多く用意しようなどの声が上がる中、日赤のボランティアが“熱中症は予防できる”と提案。それから毎朝、熱中症の注意喚起の呼び掛けレクチャーを開始しました。そのおかげか、救急搬送がゼロに。今までやってきた何気ない“声掛け”の力を感じました」

治療はできなくともボランティアだからこそできることがある。これは日々の活動から得ていた知識でした。

「11 月ごろからは仮設住宅への訪問を行っていますが、ここでも“声掛け”は絶大な力を発揮。初めは心を閉ざしていても、次第に打ち解けて信頼をしてもらえるようになるのが不思議です。これからも多くの人とつながっていきたいです」

いつも背中を押してくれる“黄色いビブス”

「私に何ができる？と考えたときに力を貸してくれたのが、日赤の“黄色いビブス”。これを着て声を掛けると、みんな耳を傾けてくれます。それはこれまで培ってきた赤十字の歴史があるから。背負う重さもありますが、だからこそ自分自身も姿勢を正すことができ、活動を続けられるのだと思います」（加藤さん）

左から肱川地域復興支援担当部長兼支所長・篠原雅人さん、係長・冨永哲成さん、桑村英里さん、井脇清美さん、中野芳将さん

愛媛

被災地の行政
大洲市肱川支所のみなさん

災害が起こって気づいた行政の使命 復興の一歩一歩が、町の絆を深めていく

愛媛県大洲市肱川町は、肱川の氾濫により冠水。３階建ての支所も２階まで浸水し、町の多くが水に浸かりました。

「私たちは３階に避難しましたが水が引き始めた町を見て愕然（がくぜん）としました。流されて重なり合った車、散乱するがれき。心がついていかず涙も出ませんでした」と語るのは篠原支所長。そこからは町のライフラインの復旧、浸水した家屋の清掃や消毒、町民のさまざまな相談対応、と行政の業務に追われ続けたそうです。

「町民から行政が改善すべき点をたくさん指摘されました。例えば、行政からの情報が末端まで伝わらなかったこと。災害によって町内の放送機器が一部の地域で壊れ、伝達不能になったのです。災害が起こるまで気がつかないことが数多くありました。そういったことを十分に検討して備えるのも今後の大切な行政の仕事です」

行政職員も被災者、“こころのケア”は重要

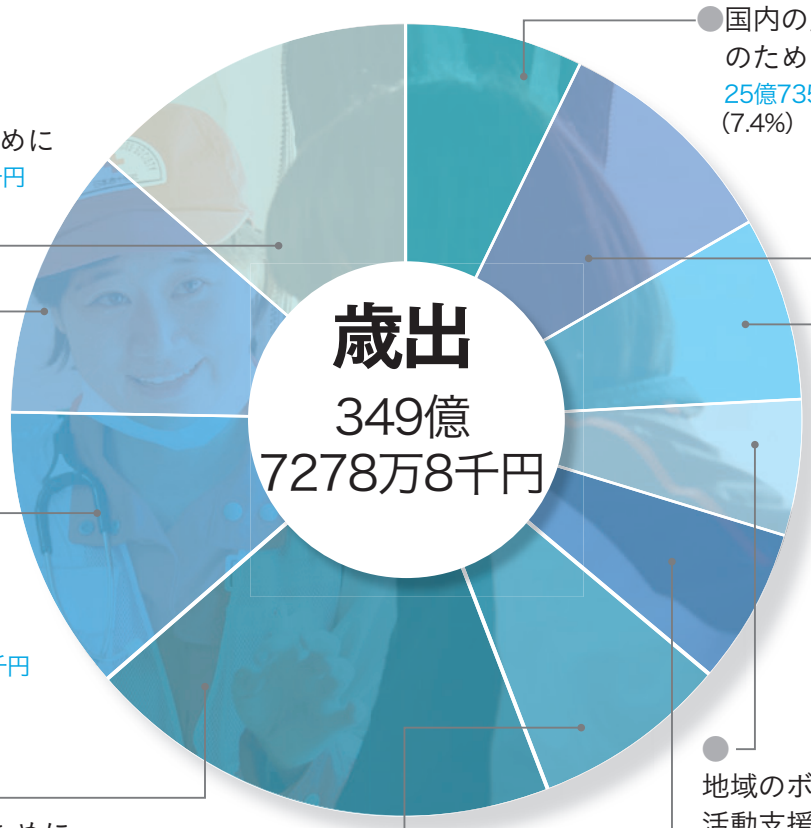
「発災から数カ月は悪夢のようでした。電話が鳴り続く狭い部屋で災害対応を行っている職員たち、彼らもまた被災者です。浸水した家のことを心配していても町民のために休みなく働き続け、疲労とストレスで力尽きてしまう。日赤さんが行っている“こころのケア”は行政の人間にも必要と痛感しました」（篠原支所長）

令和元年7月1日（毎月1日発行） 第950号（昭和24年9月30日 第三種郵便物認可）

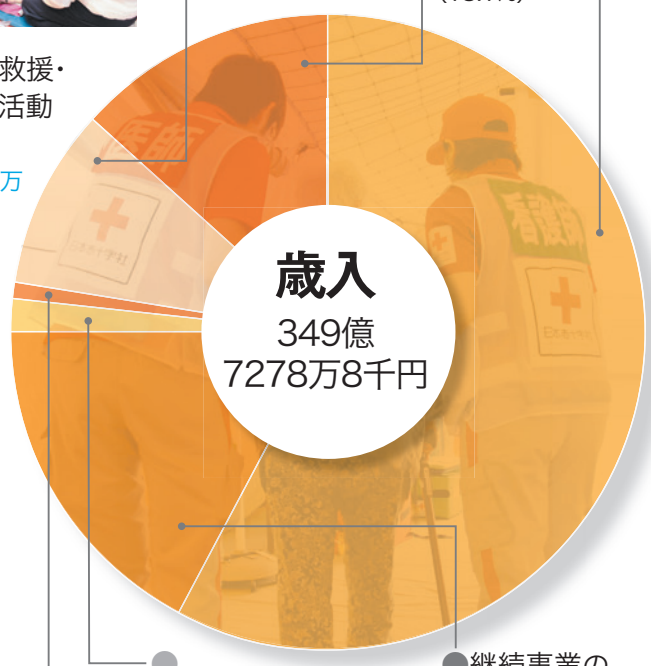
平成30年度 日本赤十字社の決算概要を報告します。

平成30年度、日本赤十字社は一般会計と３つの特別会計（医療施設、血液事業、社会福祉施設）をあわせて総額１兆2000億円を超える予算規模の事業を展開しました。このうち、個人・法人の皆さまからいただいた会費や寄付金を主な財源として実施した活動（一般会計）にかかる歳出歳入は以下のとおりです。

一般会計



- 国内の災害対応のために 25億7353万8千円（7.4%）
- 「守る」をひろめる活動のために 33億3416万1千円（9.5%）
- 海外での救援・開発協力活動のために 25億8576万4千円（7.4%）
- 地域のボランティア活動支援のために 18億9450万8千円（5.4%）
- 東日本大震災復興支援のために 23億1997万4千円（6.6%）
- 広報・普及活動のために 27億5853万5千円（7.9%）
- 事務管理のために 68億3237万9千円（19.6%）
- 赤十字施設の設備投資のために 40億6219万 3千円（11.6%）
- 次年度繰越金 38億8311万7千円（11.1%）
- 翌年度以降の継続事業のために 47億2861万6千円（13.5%）



- 会費・寄付金・海外への救援金 202億7001万7千円（58.0%）
- 前年度繰越金 33億428万8千円（9.4%）
- その他 45億9006万1千円（13.1%）
- 継続事業のための繰入金 59億7039万7千円（17.1%）
- 国庫補助金や公益補助金 6億1903万7千円（1.8%）
- 国庫委託金など 2億1898万4千円（0.6%）

※前年度からの繰入：海外救援金29億4324万5千円を含む

注１）本社・支部間で重複計上されている25億4,825万８千円については、歳出・歳入から差し引いて表示しています
注２）千円未満を切り捨てているため、歳出と歳入それぞれの各項目の合計額と表示している合計額は一致しません

全額が被災された方々に届けられます

災害義援金　318億4692万4千円

【内訳】	平成30年大阪府北部地震災害義援金	3億4686万8千円
	平成30年米原市竜巻災害義援金	3509万2千円
	平成30年7月豪雨（西日本豪雨）災害義援金	238億5137万8千円
	平成30年北海道胆振東部地震災害義援金	54億1508万8千円
	平成29年７月５日からの大雨災害義援金	2億3641万5千円
	平成29年台風第18号災害義援金	702万7千円
	平成28年熊本地震災害義援金	4億6003万2千円
	東日本大震災義援金	14億9502万2千円

※千円未満を切り捨てているため、合計は一致しません

特別会計

医療施設

診療報酬を主な財源とする赤十字病院などの運営に伴う収入・支出です。

収入　1兆685億449万5千円

支出　1兆923億5601万8千円

差引額
－238億5152万2千円

血液事業

医療機関への血液製剤の供給による収入を主な財源とする赤十字血液センターの運営に伴う収入・支出です。

収入　1609億7514万6千円

支出　1558億6525万5千円

差引額
51億989万1千円

社会福祉施設

措置費収入、介護保険事業収入などを主な財源とする各種社会福祉施設の運営に伴う歳入・歳出です。

歳入　196億1105万6千円

歳出　152億4116万7千円

差引額*
43億6988万9千円

注１）千円未満を切り捨てているため、合計金額・差額は一致しません　注２）収入とは「収益的収入」、支出とは「収益的支出」、差引額とは「収益的収入支出差引額」のことです（＊の差引額を除く）
注３）医療施設特別会計は、本社・施設間の内部取引額に相当する3億7440万3千円を収入・支出から差し引いて表示しています　●決算書の詳細は日赤ホームページをご確認ください（7月上旬公開）

TOPICS

Webサイト「KENKETSU TOWN（けんけつタウン）」オープン！

乃木坂46のメンバー5人とともに“献血つながりプロジェクト”がスタート

ポスターには乃木坂46の人気メンバーが登場。左から星野みなみさん、山下美月さん、齋藤飛鳥さん、堀未央奈さん、与田祐希さん。

献血を通して体験できる出会いや感動を届け、ハロウィーンやクリスマスなどの時期にはオリジナルグッズプレゼントも行うなど、1年間にわたりさまざまな活動を展開していく、「みんなの献血」。このプロジェクトのイメージキャラクターを務める乃木坂46のメンバー5人と、献血について理解を深めるWebサイト「KENKETSU TOWN」がスタートしました。最新のお知らせを伝えるほか、さまざまなムービーを見られる「映画館」、面白くてためになる読み物を集めた「図書館」など、タウン内のあちこちで楽しめる企画を発信していきます！

ポップなイラストで楽しみながら
献血を身近に感じられる仕掛けがいっぱい！

◀「みんなの献血」Webサイト、KENKETSU TOWNはこちらから

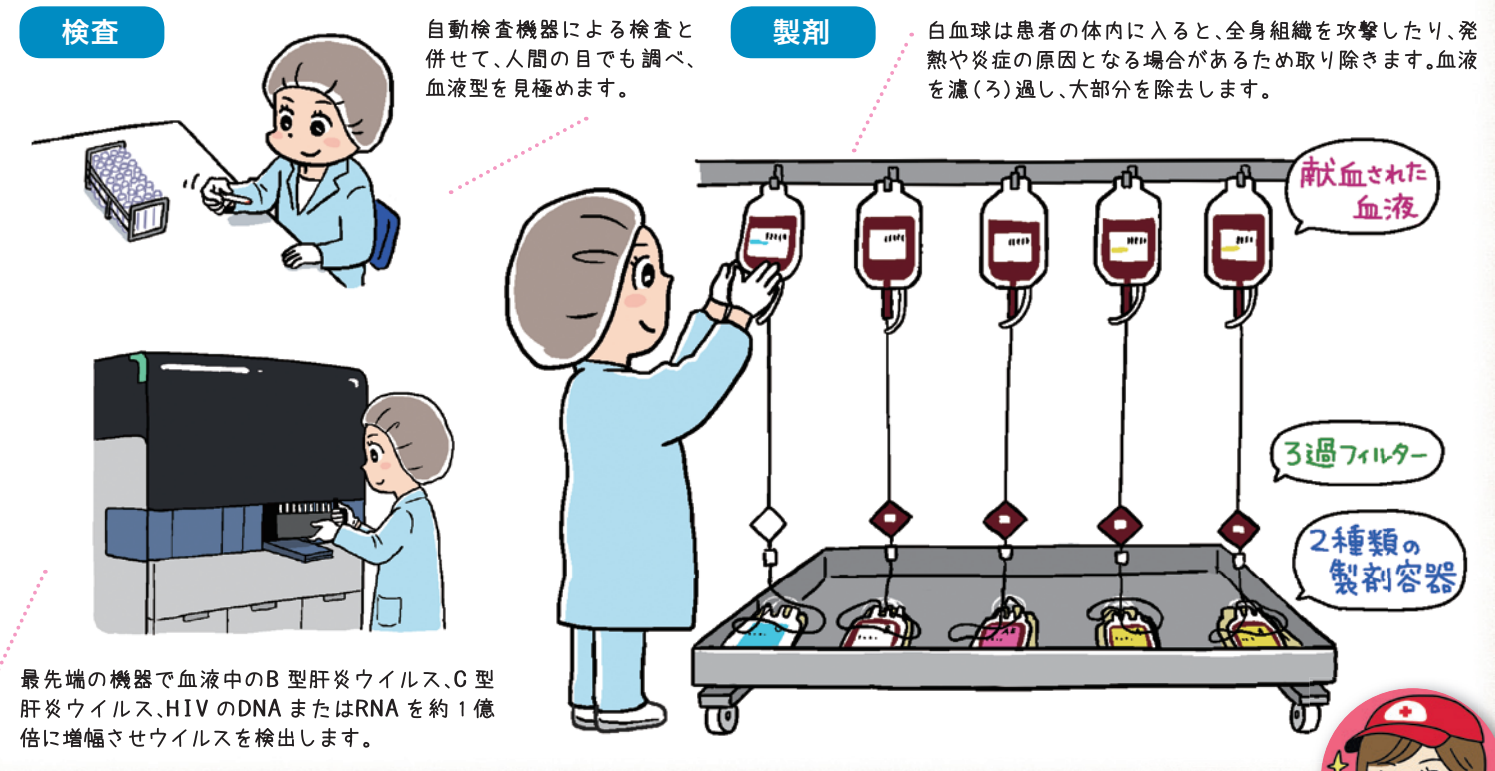
KENKETSU TOWN　検索　https://www.min-ketsu.jp/

赤井十子さんの ワクワク赤十字体験！

vol.2 献血から薬*をつくるお仕事

取材場所　関東甲信越ブロック 血液センター 埼玉製造所

*薬として病気の治療に使われる「輸血用血液製剤」のこと



365日稼働で献血のバトンをつなぐ！　使命感あふれる仕事

献血された血液は、その日のうちに血液センターの製造所へ運ばれて検査され、治療薬などとして製剤化されます。血液型は細かく分類すると250種類以上ありますが、検査部門では万が一でも血液型を間違えることがないように高性能機器と人間の目でダブルチェック。感染症の有無も調べ、徹底的に安全性を確認します。製剤部門は血液を、赤血球、血しょう、血小板に分離し、「赤血球製剤」「血しょう製剤」「血小板製剤」を製造します（現在の医療では成分を分けた輸血が主流です）。出来上がった安全・安心な製剤を、細心の注意を払い、保管温度にも気をつかって、スピーディーに7県（茨城・栃木・群馬・埼玉・新潟・山梨・長野）の血液センターに出荷するまでが埼玉製造所の役目。毎日稼働することで、血液製剤を安定供給しているのです。

赤井十子（あかいとおこ）さん。
困っている人の役に立ちたい40代のママ。1年間のボランティア経験を経て、日本赤十字社の特命職員に！さまざまな活動をわかりやすく体験リポートします。

令和元年7月1日（毎月1日発行） 第950号（昭和24年9月30日 第三種郵便物認可）
第950号（昭和24年9月30日 第三種郵便物認可） 令和元年7月1日（毎月1日発行）

AREA NEWS

全国各地、あなたの生活のすぐそばで、
日本赤十字社の活動は行われています。

全国

温かい気持ちをすがすがしい香りにのせて、64回目のすずらんの贈呈式

今年もANAグループから全国51の赤十字施設に向けて、すずらんの鉢植えと、1枚1枚にANA職員の手書きのメッセージが書かれたすずらんの香り付きしおりが届けられました。

広島赤十字・原爆病院では5月29日に贈呈式を開催。広島市出身の客室乗務員からしおりを手渡され、患者からは「夏のすがすがしい香り。早く元気になりたいです」など喜びの声が上がりました。

贈呈式の終了後、ANAグループ社員のみなさんは同病院に隣接する「メモリアルパーク」を訪問。1966年の羽田沖の事故で亡くなられた同社の元客室乗務員をしのぶ石碑をお参りしました。石碑に名前を刻まれたこの方は、生前、同病院を慰問に訪れ、すずらんの花とともに励ましの言葉を届けていました。石碑は、ご不幸を知った入院患者たちの篤志によって建立されました。

（左）東京の日赤医療センター。すずらんの鉢植えも贈られた。（右）広島赤十字・原爆病院

NEWS ON LINE ニュースオンライン

↑なぜ入院患者たちは石碑を建てたのか。詳しいエピソードはこちらから

毎年5月は「赤十字運動月間」 各地で啓発イベントが活況！

日本赤十字社は、毎年5月を「赤十字運動月間」として、赤十字活動へのご理解とご協力を呼び掛けています。先月に続き、全国の啓発活動をご紹介します。

日赤長野県支部はテレビ番組を通じて赤十字活動を解説。4つの民放テレビ局で計5回、職員や長野赤十字看護専門学校の学生奉仕団員、ハートラちゃんが番組に出演し、活動資金の使い道、災害現場での赤十字の救護活動、支援物資などについて説明しました。また5月1日、長野駅前では長野県青年奉仕団員がハートラちゃんとともに、街の人々にインタビュー。長野市赤十字奉仕団も連携し、炎天下の街頭で活動資金への協力を呼び掛けました。

京都府支部は5月26日に、京都駅前地下街にある「ポルタプラザ」でイベント「ひろげよう赤十字の輪（和）『平成の災害と赤十字』展」を開催。令和の新時代に向けて、平成に起きた災害と赤十字活動を振り返るタペストリーを展示しました。同じく26日には「まいづる田辺城まつり」にもブースを出展し、支部および舞鶴赤十字病院の職員やボランティアが啓発活動を行いました。

大阪府支部では、5月25・26日、プレママ＆パパ向けのイベント「マタニティランド」に体験型ブース「乳幼児の一次救命処置」を出展し、災害セミナーも開催。子どもの命を守る幼児安全法や防災の知恵を多くの来場者が体験しました。

奈良県支部は5月25日に「赤十字フェスタ2019 in なら」を開催。奉仕団によるステージなども交えて、AED講習や救護服の試着、救援物資の展示などを行いました。

「まいづる田辺城まつり」の赤十字ブースには数多くの親子連れも

プレママ＆パパが子どもを守る方法を体験！

「赤十字を知っていますか？」とインタビューで理解を促進

オープニングセレモニーには高取国際高等学校の吹奏楽部が参加

広島県

全国初！ 被災者の食と健康を守る「健康・栄養赤十字奉仕団」が発足

5月1日、日赤広島県支部で、被災者の健康維持・向上を目指す「健康・栄養赤十字奉仕団」が結成され、精力的に活動を開始しました。メンバーは県内の病院、学校、企業で働く栄養士・管理栄養士、10人。5月11日には西日本豪雨の被災地・安芸郡坂町の仮設住宅を訪れ、炊き出しと栄養相談を行い、6月15日は同じく仮設住宅での健康教室を開催しました。

被災者に寄り添いながら栄養相談、健康教室を開催します

埼玉県

殉職した日赤救護員を追悼 戦争の悲惨さと先人の思いを語り継ぐ

5月28日、日赤埼玉県支部で県内の殉職救護員32人を慰霊する「第62回殉職救護員追悼式」が開かれ、ご遺族や上田清司埼玉県知事ほか約150人が参列。支部敷地内の殉職救護員慰霊碑前でご冥福と平和への祈りをささげました。式典終了後に戦地の救護班として活動した木村美喜さんによる講話があり、聴講した一人は「生々しい体験の話に、戦争の悲惨さが伝わった」と語りました。

埼玉県支部の支部長である上田知事が追悼の言葉を述べた

神奈川県

JRC高校生たちの元気な呼び込みで救急法体験のブースは大盛況！

6月1・2日と8・9日に開催された「横濱ドラゴンボートレース」で、日赤神奈川県支部の青少年赤十字（JRC）高校生メンバーと神奈川県安全赤十字奉仕団員が連携して救急法体験ブースを運営しました。日々の部活動を通して救急法を学んでいるJRC高校生23人は、熱意あふれる呼び込みでブースを盛り上げ、来場者に胸骨圧迫やAEDの使い方などを丁寧に伝えました。

「一人でも多くの人に救急法を伝えたい」と頑張る高校生たち

静岡県

赤十字の精神を伝え合い、響き合う高校生が運営する「青少年赤十字大会」

5月26日、「第59回静岡県青少年赤十字大会」が開催され、県内の青少年赤十字（JRC）メンバー約170人に奉仕団や来賓を加えた約400人が参加しました。中学生が学校で取り組むJRC活動を発表し、高校生が福島県の被災地視察や現地高校生との交流を報告するなど、「気づき・考え・実行する」というJRCの態度目標の実践例を通し、参加者全体で意識を高め合う機会となりました。

JRC作品コンクールの表彰など、ステージ進行も高校生が行った

福岡県

日韓友好の輪を福岡から広げよう！大韓赤十字社と交歓研修会を開催

日赤福岡県支部と大韓赤十字社釜山広域市支社は1975年に姉妹支社（支部）協定を締結し、相互に訪問して友好親善を深めています。今年度は5月14～17日に釜山の奉仕団員が来福し、県支部、福岡赤十字病院、日赤九州国際看護大学の視察を行いました。趙浩奎（チョホギュ）団長は「日韓両国の支部が切磋琢磨（せっさたくま）できるよう、今後も交流を続けたい」と語りました。

福岡県庁を表敬訪問し「赤十字が両国間の架け橋となる」と、一団

present プレゼント

“つらいときは…大きな声で笑おう”
生きる喜びにあふれる絵本！

「笑いをなくした道化師 ジェスター」

5名さまに

ニューヨーク・タイムズ紙ベストセラーに選出された絵本の翻訳版。作者デイヴィッド・サルツマンは名門イェール大学の4年生の時に悪性リンパ腫を発症、「入院中の子どもたちに笑いを届けたい」と闘病生活の中でこの物語と絵を完成させ、23歳の若さでこの世を去りました。この度、東京グローバルロータリークラブの寄付により、赤十字病院の入院児・新生児へこの絵本5000冊の贈呈が行われたことを記念して、読者の皆さまへプレゼントいたします。

希望者は、以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールでご応募ください。
①お名前（匿名をご希望の方は、その旨もご記入ください）
②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢
⑤赤十字 NEWS 7月号を手にされた場所（例／献血ルーム）
⑥7月号で良かった記事、興味深かった記事はどれですか？（いくつでも）
A. 表紙 B. 西日本豪雨災害 あれから1年
C. 決算概要報告 D. KENKETSU TOWN
E. ワクワク赤十字体験！ F. エリアニュース
G. 健康豆知識 H. プレゼント
I. ワールドニュース J. 1枚の写真から
⑦赤十字NEWSのご感想、扱ってほしいテーマ、その他 Voice（読者の声）への投稿もお待ちしています。

郵送／〒105-8521
東京都港区芝大門 1-1-3 日本赤十字社
広報室 赤十字 NEWS 7月号プレゼント係
FAX／03-6679-0785 メール／koho@jrc.or.jp
（件名「赤十字 NEWS 7月号プレゼント係」）
7月31日（水）必着
※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます

「知ってて良かった！健康豆知識」は切り取って保存していただけます

日赤のドクター＆ナースが教える
知ってて良かった！ 健康豆知識

file. 57

「難聴」かも？聞こえづらいな、と感じたら…

旭川赤十字病院 耳鼻咽喉科 部長 藤田 豪紀（ふじた たけとし）
北海道旭川市曙1条1丁目1番1号 TEL：0166-22-8111

耳が聞こえづらくなった状態、いわゆる難聴の代表的なものに「加齢性難聴」と「突発性難聴」があります。

「加齢性難聴」は年齢とともに聴覚細胞の衰えによって少しずつ進行するもの。どなたにも起こることであり、有効な治療法や予防法はありません。ただし糖尿病や高血圧、脂質異常症など血液の循環を悪くさせる生活習慣病は、加齢性難聴の進行を早めるとされています。

個人差はありますが一般的には50代ごろより、まずは高音から聞こえづらさを感じるようになります。進行を早めないためには、耳に負荷をかける環境（大音量のコンサートなど）はなるべく避けたほうがいいでしょう。

一方の「突発性難聴」はある日突然、耳が聞こえづらくなる病気で、前兆や初期症状もありません。また、通常は片耳のみに症状が現れます。

治療は血液の循環を促進するステロイド剤の投与を行います。また最近は、聞こえづらくなった耳に集中的に音を聴かせる「音響リハビリ」という治療の有効性が確認されています。

突発性難聴の原因は、はっきりとは解明されていません。また一度完治すれば再発はしないとされており、もしも繰り返すようであれば別の病気の疑いがあります。

ただし突発性難聴はなかなか治りづらい病気でもあり、症状が出て1週間以内に治療を開始しても完治するのは4割弱とされています。もちろん1週間を過ぎるとその分だけ完治率が下がるため、「おかしいな？」と思ったら早めの受診が大切です。

日常生活で聞こえ方に支障が出たり、いつもと違うと感じたら、早めに耳鼻科の診療を受けましょう。

赤十字の活動に「寄付」で参加できます！

あなたの寄付でできること

安眠セット（1人分）2000円

緊急セット（1世帯4人分）3000円

日本赤十字社は災害発生後、救援物資をすぐに被災者の方に届けられるよう、日頃からたくさんの毛布や安眠セット、緊急セットを備蓄しています。

◀ご支援はこちらから

日本赤十字社への寄付は
税制上の優遇措置が受けられます。

赤十字NEWSは日本赤十字社のさまざまな活動について最新の情報を交え皆様にお伝えします。このような赤十字の活動は、すべて皆様からの会費や寄付によって支えられています。寄付という形で参加することで、あなたの気持ちを誰かのために役立てることができます。活動資金へのご協力をよろしくお願い致します。

令和元年7月1日（毎月1日発行） 第950号（昭和24年9月30日 第三種郵便物認可）

WORLD NEWS

緊急対応ユニット（ERU）

ERU の資機材の中にはエックス線撮影室や手術室なども含まれている

いち早く被災地に救援の手を差し伸べる日赤のERU

世界中の被災地で大活躍する「緊急対応ユニット」。
“ 移動式診療所 ” とも呼ばれる Emergency Response Unit ＝ ERU の最新事情をリポートします。

24時間 365日、準備を整えて 突発的な災害に即時対応

大規模な災害発生時、日赤の「緊急対応ユニット（ERU）」が世界各地へ派遣されています。

ERUとは緊急事態や大規模災害に対応する特別チームで、いつでも出動可能な訓練を受けた職員と、すぐに医療や給水衛生活動などを開始できる資機材がセットになったものです。日赤が保有する診療所ERUは、簡易手術を含む基礎的な治療、母子保健、地域保健、予防接種、栄養状況の観察などを行うことができます。１チームの基本的な構成は、医師や看護師、技術職など13人。資機材には医療品やテントのほかに発電機や照明なども含まれています。現在、日赤では海外（シンガポール）に１基、熊本赤十字病院に１基の計２基を保管しており、24時間365日いつでも被災国へ迅速に出動できる体制を整えています。今も支援を続けるバングラデシュ南部避難民救援活動で、2017年に２基のうち１基を展開したため、今回新たに１基を再整備することになりました。

小さな病院を丸ごとパック 診療所として機能

熊本赤十字病院に保管されているERUは、資機材だけで10トントラック５台分という規模。「病院を小さくパック詰めにして海外に引っ越すようなもの」（熊本赤十字病院国際医療救援部 曽篠救援課長）と説明するように、ERUは被災地で上下水道や電気設備も自力で設営し、一次医療の診療所としておよそ１カ月間の活動が可能です。被災地に持ち込まれる食糧は、アルファ米やフリーズドライの野菜、ようかんやフルーツ缶など。暑い季節には扇風機、寒冷地の場合は大型ストーブも被災国へ送り込まれます。

日赤のERUは過去、2001年のインド西部地震、2010年のハイチ大地震、2015年のネパール地震などに派遣されています。「災害は毎回、異なる状況があり、新しい発見がある」という曽篠課長は、データの蓄積や分析の重要性を痛感。派遣先での経験を「日本国内での災害対応にも生かしていくことも重要」だと語りました。

世界各地で起こりうる大規模災害に備え、展開後にはすぐに資機材を補充することで、いつでも救援要請に対応できるよう、準備をしています。

ERU１基の資機材は700品目以上

1枚の写真から
picture tells stories

ペダーソンさん（後列の中央）にとって日赤は174社目の訪問地となった

世界各国を旅する赤十字精神の “ 伝道者 ”

４月上旬、デンマークの赤十字親善大使であるトールビョン・ペダーソンさんが日本赤十字社を訪れました。彼は世界各国を回る旅人で、飛行機は使わない、世界 191 の国や地域にあるすべての赤十字社を訪問するまで帰らない、降り立った国や地域に 24 時間以上滞在する、というルールを自らに課して旅を続けています。彼が発信するメッセージの中で強調されているのは、各地で発生する紛争や伝染病の恐怖ではなく、世界中の人々が共通して持っている “ 善意 ” です。そして、「どの国の人も、瞳の美しさに変わりはない」というペダーソンさんの SNS には、その地で暮らす人の瞳を写した写真も。人種や国籍を超えた “ 善意 ” こそが、人道や公平をうたう赤十字精神そのものなのです。